

男女共同参画で輝く暮らし、豊かなふれあい

「仕事と暮らしのベストバランスを求めて」

平成29年度に実施した「桶川市男女共同参画に関する市民意識調査」では、「ワーク・ライフ・バランス」の意味について、4割以上の人が「知らない」と回答されました。

わたしたちがワーク・ライフ・バランスを実現するために何が必要かを考えてみませんか。

ワーク・ライフ・バランスとは…

仕事と生活の調和を図ることを言います。一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択、実現できるとです。

なぜ「ワーク・ライフ・バランス」が必要なの？

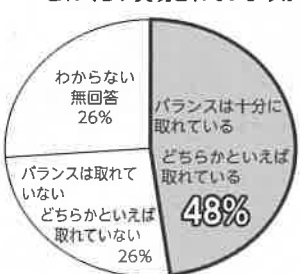
わたしたちの身のまわりでは、「安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない」、「仕事に追われ心身の疲労から健康を害しかねない」、「さらに「仕事と子育てや介護との両立に悩んでいる」など、仕事

と生活の間で問題を抱える人がいます。これが将来への不安や、豊かさが実感できないことへの大きな要因になっていくのではないのでしょうか。これを解決する取り組みの一つにワーク・ライフ・バランスの実現があります。

現状は？

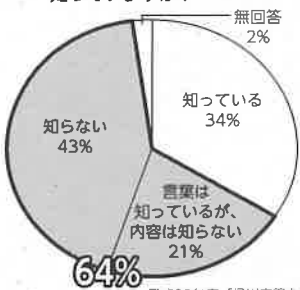
平成29年度「桶川市男女共同参画に関する市民意識調査」によると、仕事と生活の調和が取れていると回答した人が半数近くいるもの(下記図1)、「ワーク・ライフ・バランス」の言葉は知っているが、内容は知らない「知らない」と回答した人が半数以上いました(図2)。つまり、ワーク・ライフ・バランスの認識には個人差があるという現状がわかります。

図1 ワーク・ライフ・バランスはどれくらい実現されていますか？



平成29年度「桶川市男女共同参画に関する市民意識調査報告書」より

図2 ワーク・ライフ・バランスを知っていますか？



よって家事や育児に協力できない現状があるのではないのでしょうか。

あなたにとつての男女共同参画を考えてみませんか

平成30年度の男女共同参画週間のカヤッチフレーズは「走り出せ、性別のハードルを超えて、今」でした。このテーマは、スポーツだけではなく、子育て、介護、地域活動、自己啓発など、あらゆる機会の中で男女が共に心豊かな生活を送るためには大切な考え方ではないでしょうか。充実した生活があるからこそ、仕事への活力が得られます。あなたにとっての仕事と暮らしのベストバランスを探してみませんか。

市では毎年、男女共同参画を推進するため「男女共同参画フォーラム」を開催しています。今年の講師は、80代でゲームアプリ「ひな壇」を開発した若宮正子さんです。2月17日(日)、さいたま文学館に、ぜひお越しください。

詳しくはP.18



市民インタビュー

「仕事も暮らしも生活も楽しむ」

市内でワーク・ライフ・バランスを充実させている手島農園の手島文子さんにお話を伺いました。



「私は、今が一番幸せです!!」と語る手島文子さん

Q 普段はどのように過ごされていますか。

A 夫と息子夫婦と家族4人で専業農家として野菜作りをしています。働きながら主婦として家事をしつつ、地域の方に新舞踊を教えています。

Q お仕事以外もお忙しいようですね。

A はい。老人会活動では、芋煮会やお餅作りなどしています。そのほか、趣味で短歌も楽しんでいます。

Q 仕事と生活のバランスをどのように取っていますか。

A 幾つもの予定が重なってしまうこともあるので、忙しい時はスケジュール

の優先順位を決めるようにしています。玄関を1歩出たら「妻、母」から「私、個人」にスイッチを切り替えるよう心掛けています。

また、自分が留守になる時間を家族に伝え、協力して家事をするようにしています。家族がお互いに思い合ってくれているのがありがたいです。

夫は「がんばれや!」息子は「しんどい時は休んでよ!」嫁は「私が外で活動できるのはお母さんのおかげです。」と、いつも言ってくれます。



Q 若い人に伝えたいことは。

A 周りのことを考えながらになりませんが、自分の中で一本筋を通したものにすることが大事だと思います。

「男女共同参画推進フォーラム」に参加して

昨年8月、嵐山町にある国立女性教育会館で開催された「男女共同参画推進フォーラム」に参加しました。毎年、このフォーラムでは数多くのワークショップや分科会等が開催され、全国から1,000人を超す参加者が集まります。

今回の特別講演の講師は、NHKローニュース現代で23年間キャスターを務められた国谷裕子さんでした。国谷さんは、女性活躍社会がなかなか実現できない現状を嘆き、自身のキャスター時代でも男性が多い組織の中では、女性目線の提案が通りづらかったと話されました。

印象深かったのは、国連で採択されたSDGs(エスディーズ)が持続可能な開発目標の話です。貧困、教育、ジェンダー平等、地球環境など17の目標があり、一見バラバラに見える目標も底辺では繋がっていて地球の限界を認識し、みんなで解決していかなければならない。それには女性の力が重要だと、キャスター時代と変わらなずアキバキと自信に満ちた話しぶりで、わたしたちも何かやればできるかもしれないと勇氣づけられました。(編集委員N)

市では、国や県などが主催の男女共同参画に関する研修等に参加する際の費用の一部を助成しています。

男女共同参画コーナー



市役所2階の男女共同参画コーナーアソシエでは、パネル展示や男女共同参画に関する図書などの貸出を行っています。ぜひご利用ください。



編集後記

このコーナーは、男女共同参画情報「かがやき」編集委員の協力で作成されています。

- みる事、聞く事、知らない事ばかりで勉強になりました。(F.H)
- 聞き慣れない言葉に戸惑いながらも頑張りました。(M.O)
- ワーク・ライフ・バランスの支点はどこにあるのか考えました。(Y.N)
- 今までの経験を生かして、紙面作りを楽しみました。(N.N)
- 紙面で想いを人に伝えることの難しさと楽しさを味わいました。(Y.M)